



第23回

W LEAGUE

Women's Japan Basketball League

SEASON REPORT

2022年

一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ



事業報告 | 概要

今シーズン第23回のWリーグは、東京2020オリンピックでの女子日本代表チームの活躍を受けて、大きな注目を浴びると同時に、女子バスケットボールを更に国内外に知っていただくための機運を高める上で非常に重要なシーズンでした。

Wリーグは本来であれば「普及」と「強化」の旗印の下、日本全国のPBAが主管者として開催を行うことが標準的なスタイルですが、今期も依然として終息の見通しが立たない新型コロナウイルス事情を考慮し、すべての試合をWリーグが主管し、PBAがその運営協力を行い、「1節1会場複数試合実施」という集中開催により、開催地における過不足のない均一的なコロナ対策を実施する、という昨シーズンと同様のスタイルにての開催に踏み切りました。

政府のイベント実施に伴う国内方針に基づき、大会実施における運営ガイドラインを作成。また昨年同様に1シーズン5回にわたる公式PCR検査を実施させるなど、昨シーズンにおけるコロナ対応の知見を更にブラッシュアップさせながら、10月16日に第23回大会は開幕を迎えました

2021年内は順調に日程を消化するも、2022年の年明けより再び新型コロナウイルスの影響により多くのチームが感染。これに伴い、直前での試合中止を余儀なくされるという緊急事態も多々発生いたしました。

それでも、チーム・選手・関係各位の努力と協力の下、シーズンチャンピオンを決めるプレーオフシリーズは予定通りの日程を無事に消化することができました。また1月から延期し開催したオールスターも好評のうちに終了することができました。

引き続きWITHコロナというタフなシーズンではありましたが、東京2020オリンピックで活躍した選手だけでなく、多くの選手が質の高いプレーを見せ、リーグ戦は近年にない混戦となりました。中でもシャンソン化粧品シャンソンVマジックはルーキー選手の活躍と優勝経験を誇る選手の加入により躍動し、久しぶりのプレーオフセミファイナル進出を決めるといふ健闘を見せました。また11年連続優勝を誇る女王ENEOSサンフラワーズが16シーズンぶりにファイナル進出を逃すなど、近年稀に見る実力拮抗のシーズンとなりました。

迎えたプレーオフファイナルは今シーズンのレギュラーシーズンにおいて2度の中止となり実現できなかった「富士通レッドウェーブvsトヨタ自動車アンテロープス」との対戦。アメリカWNBAへの挑戦を控えた町田瑠唯選手を軸に堅守速攻の富士通に対し、豊富なタレントによるバランスの取れた布陣のトヨタ自動車が迎え撃つ構図に。

Wリーグ初開催となった国立代々木第一体育館には世界レベルの国内女子バスケットボールの熱戦をその目に焼き付けるべく、1日目には5,855人、2日目にはWリーグ最多動員記録となる7,151人のファンが集結。両チームもその熱い思いに応えるべく両日ともにハイレベルな熱戦を繰り広げましたが、皇后杯敗退の教訓を生かし、最後までリングに向く姿勢を崩さなかったトヨタ自動車が2連勝し、2年連続の女王の座を射止めました。

前述の通り、「リーグ主管・集中開催による開催接点数の大幅な減少」、「イベント実施の政府方針に伴う入場者数制限」、「レギュラーシーズン10試合の中止」、「企業による現地アリーナでの観戦自粛の方針」等によりベストコンディションでの開催は叶わなかったものの、観客数制限の中でも多くのファンがチケット予約にお申込みくださるなど、状況は上向きの傾向を見せ、総観客動員数は73,445人、前年比は328%（前年22,407人）という結果に。

1開催当たりの平均入場者数も、上記の事象の中918人 ※前年比176%（前年521人）と、大きく上回る結果となったが、コロナ前の数字には未だ戻っておらず、一刻も早い国内感染状況の好転と安心安全なアリーナ観戦に向けたお客様の環境醸成が進むことを期待するとともに、Wリーグとしても観客増に向けた更なるアプローチを展開していく所存です。

今期においては、昨年に引き続きリーグによる開催主管により、2年連続で財務は逼迫したものの、最低限の目標であるシーズンの成立・完遂を果たせたことに安堵するとともに、来る第24回大会が平常な状態で開幕できるようリーグとしても粛々と準備を進めてまいります。

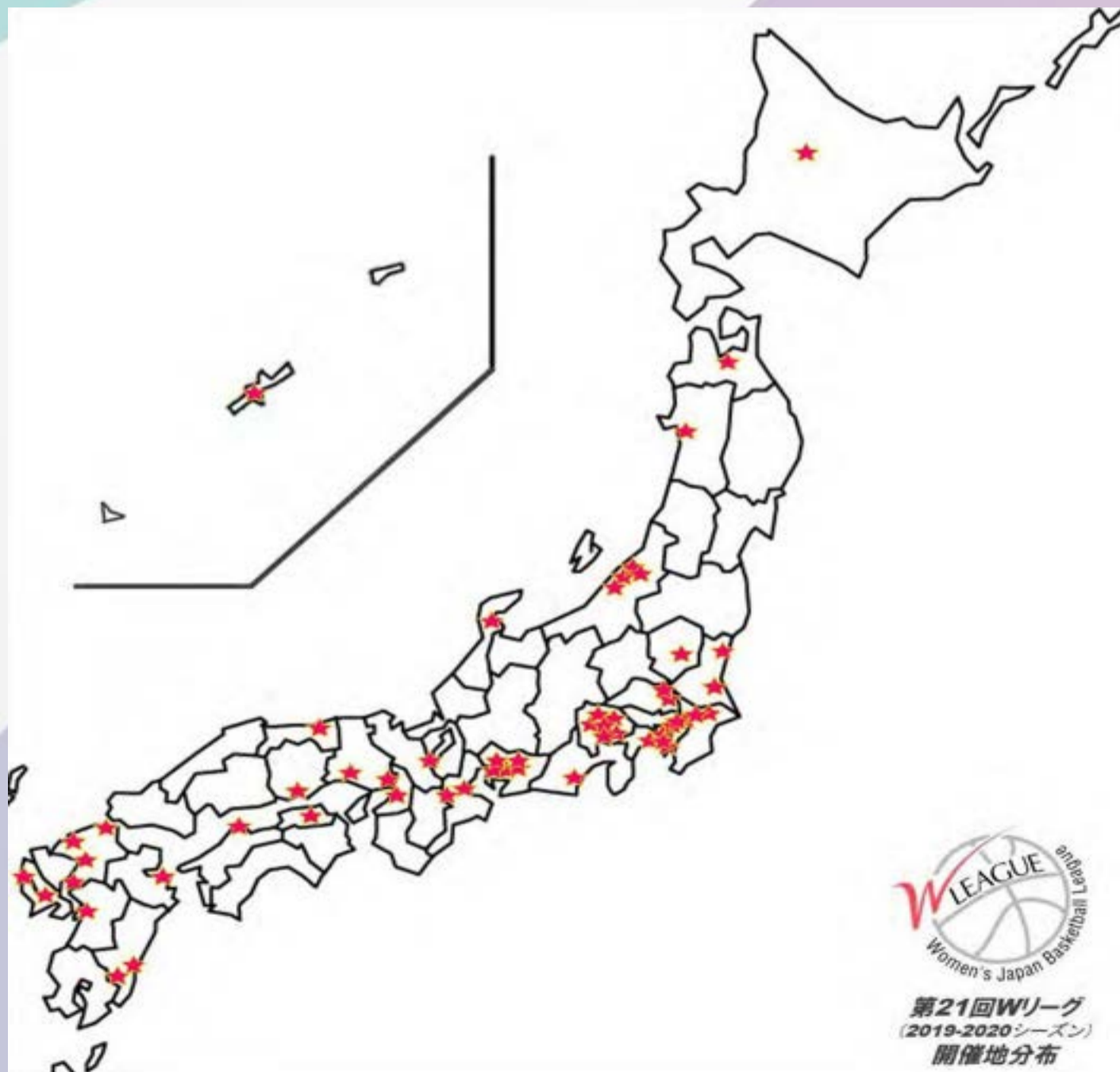
本年度のリーグレギュレーション

日本全国都道府県/(47都道府県)での試合開催を再び断念

● Wリーグの目的

女子バスケットボールをより広く国民に《普及》させること。
選手の技術向上、チーム《強化》に努め、内外にアピールすること。

→ 左記目的に基づき、本来であれば日本全国各地にて試合の開催を計画。



Wリーグは各チームのホームタウン以外でも数多く試合を実施し、国内トップレベルのプレーの観戦機会を創出することで競技の普及に努めています。

しかしながら本年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため全ての試合をリーグ主管+クラブ主管による準集中開催とし、PBAでの主管による開催を断念しました。

前シーズンの東西制ではなく、新規参入のアランマーレ秋田を加えた全13チームによる2回戦総当たり制にて1チーム当たり24試合計156試合を予定いたしました。



本年度のリーグの取り組み

チーム・選手の安全確保

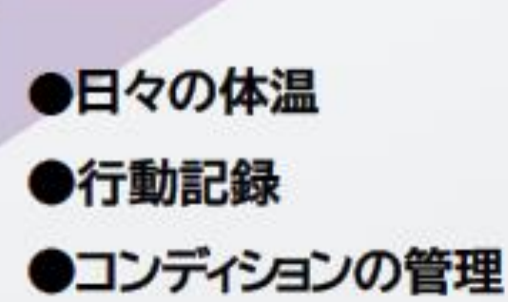
1 準集中開催による対策の平準化

2 公式PCR検査(リーグ公式)の実施

対象者: 出場全チームにおいて毎試合ベンチ入りする者
(選手・HC・各コーチ・TR・MGR・GM・部長)
Wリーグ担当審判員およびWリーグ事務局員

※Wリーグ指定のレギュレーションに従い実施

3 アプリ『アトレータ』を用いた「健康管理日報」「行動記録」の共通利用



- 日々の体温
- 行動記録
- コンディションの管理

「アトレータ」

エムティーアイ社提供のWリーグ推奨コンディション管理アプリ

来場者の安全確保

1 運営ガイドラインの作成

新型コロナウイルス感染症の感染予防および対処について
Wリーグ選手、関係者としての行動指針を示し、
安全にWリーグ公式戦を実施できるように意識を統一することを目的に作成。

Jリーグ、Bリーグ他、トップリーグ連携機構加盟の各種競技団体と情報を共有し
vsコロナを念頭に置いた運営ガイドラインを作成しています。

2 すべての来場者向け「非接触型体温自動検知システム」を導入など



新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう今
お客様に「煩わしさを感じさせることなく」
「安全安心を提供する」ために、同システムを導入。

- 立ち止まることなく、1秒以内に検温が可能
- 10人以上の同時検温が可能
- マスクをしていても顔認識が可能

これ以外にも消毒液・フェイスシールド等の
整備に努めます。

第23回 **W** リーグ SEASON REPORT

入場者状況

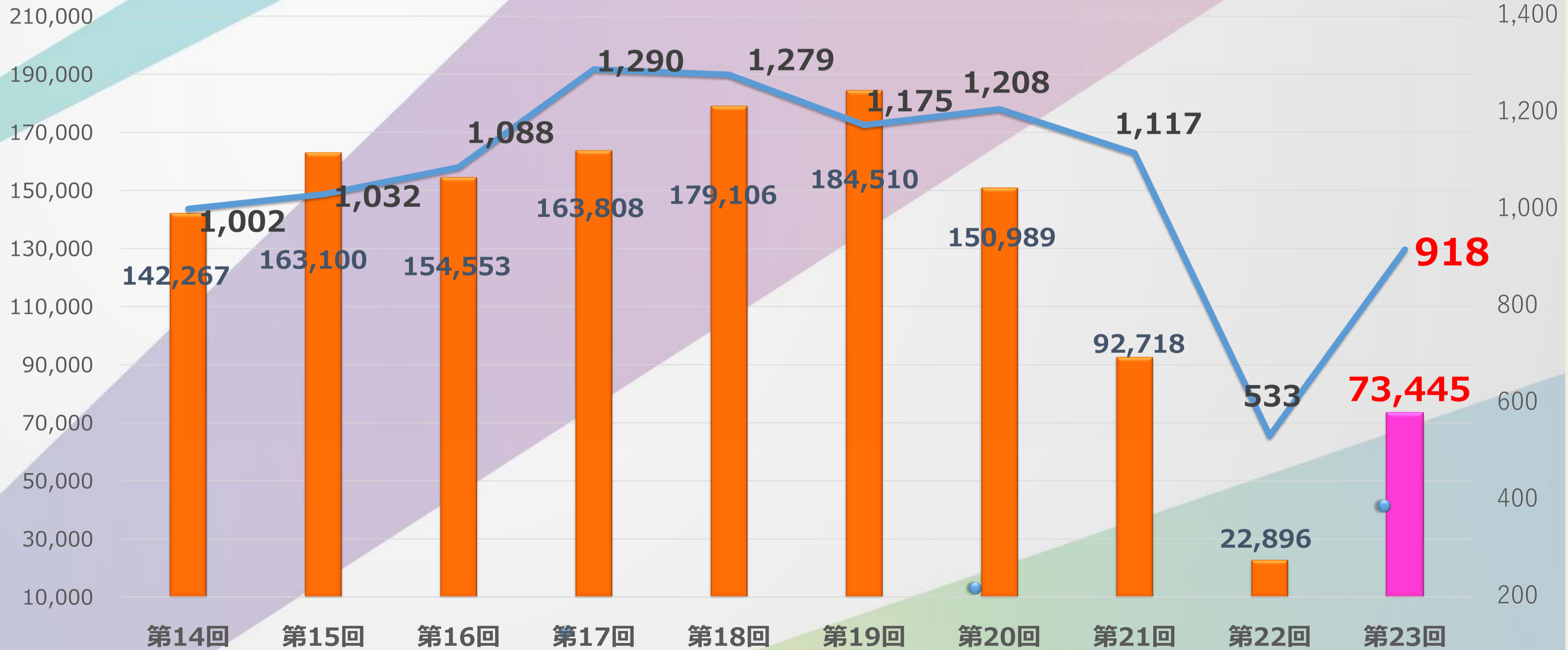
Women's Japan Basketball League

入場者数推移 / 入場者数ランキング

入場者数推移

第23回大会 (2021-22 Season)

新型コロナウイルス感染対策により2月中までは「50%の観客制限」を実施。
 その中で14/70の興行が**完売**。
 五輪特需の機会損失はあったものの、昨年の状況よりは好転。
 従来の観客数が戻りつつある傾向。



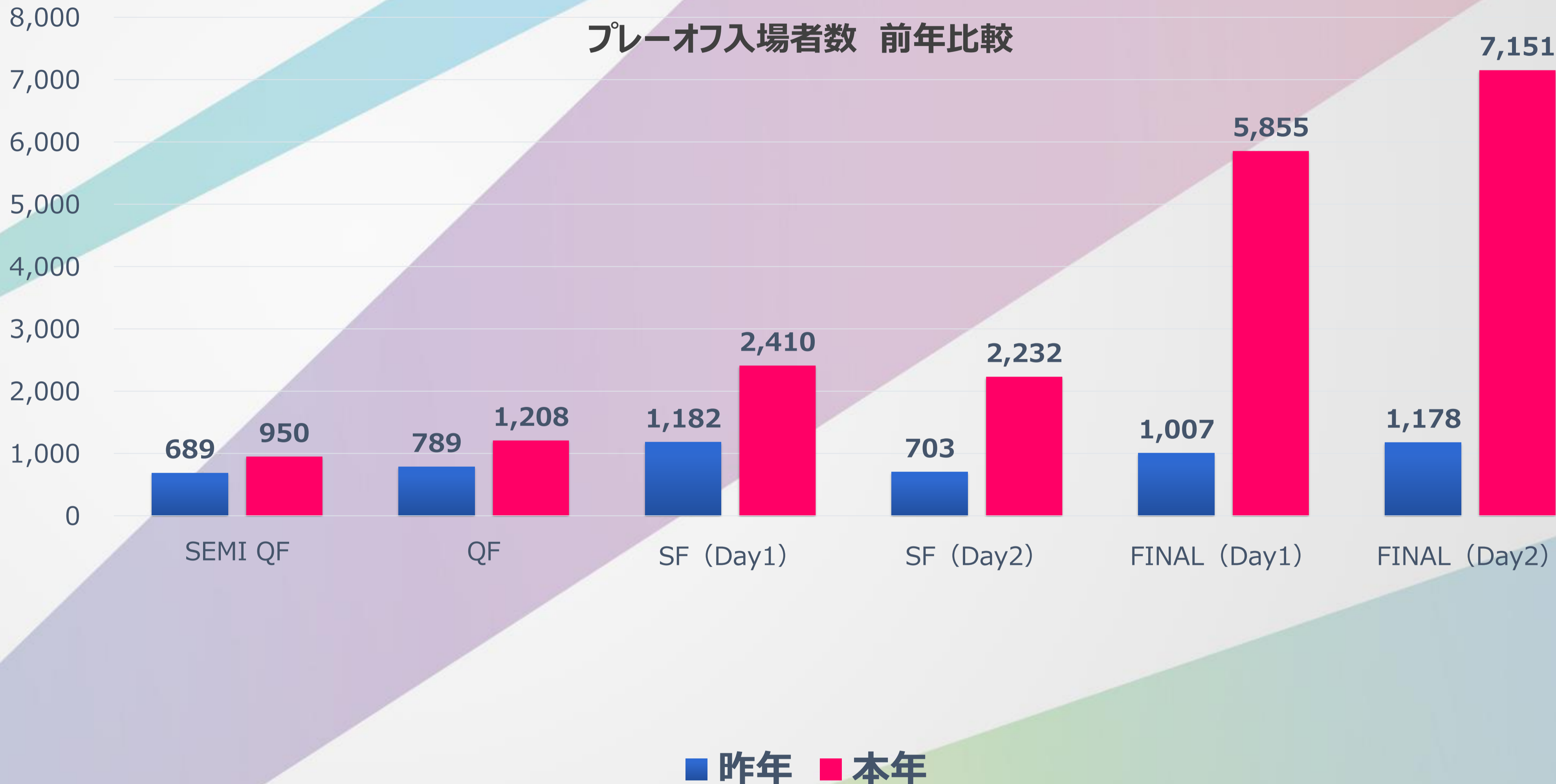
■ 総入場者数 ● 平均入場者数



入場者数推移

第23回大会 (2021-22 Season)

※前年 第22回大会プレーオフと今年の比較



昨シーズンは50%制限下での開催でしたが今年は収容数100%での開催により前年比は大幅に向上

開催別入場者数ランキング

RANK	日付	会場	対戦カード	合計	備考
1	2022/4/17	国立代々木第一体育館	富士通vsトヨタ自動車	7,151	プレーオフファイナルGame2 ※リーグ史上最多動員数
2	2022/4/16	国立代々木第一体育館	富士通vsトヨタ自動車	5,855	プレーオフファイナルGame 1 ※リーグ史上動員数2位
3	2022/4/9	国立代々木第二体育館	ENEOSvs富士通 トヨタ自動車vsシャンソン	2,410	プレーオフセミファイナルGame 1
4	2022/4/10	国立代々木第二体育館	ENEOSvs富士通 トヨタ自動車vsシャンソン	2,232	プレーオフセミファイナルGame 2
5	2022/3/5	国立代々木第二体育館	ENEOSvs富士通 トヨタ自動車vsデンソー	1,907	国際女性デーイベント
6	2021/10/30	とどろきアリーナ	トヨタ自動車vs山梨QB トヨタ紡織vsデンソー 富士通vsシャンソン	1,827	50%入場制限 前売完売
7	2022/3/6	国立代々木第二体育館	ENEOSvs富士通 トヨタ自動車vsデンソー	1,659	国際女性デーイベント
8	2022/10/31	とどろきアリーナ	トヨタ自動車vs山梨QB トヨタ紡織vsデンソー 富士通vsシャンソン	1,639	50%入場制限 前売完売
9	2022/1/3	国立代々木第二体育館	トヨタ紡織vs日立ハイテク シャンソンvs三菱電機 トヨタ自動車vsENEOS	1,571	50%入場制限 前売完売
10	2022/1/2	国立代々木第二体育館	富士通vs山梨QB デンソーvs東京羽田	1,506	50%入場制限
参考	2022/5/5	国立代々木第二体育館	Wリーグオールスター	2,557	前売完売

第23回 **W**リーグ SEASON REPORT

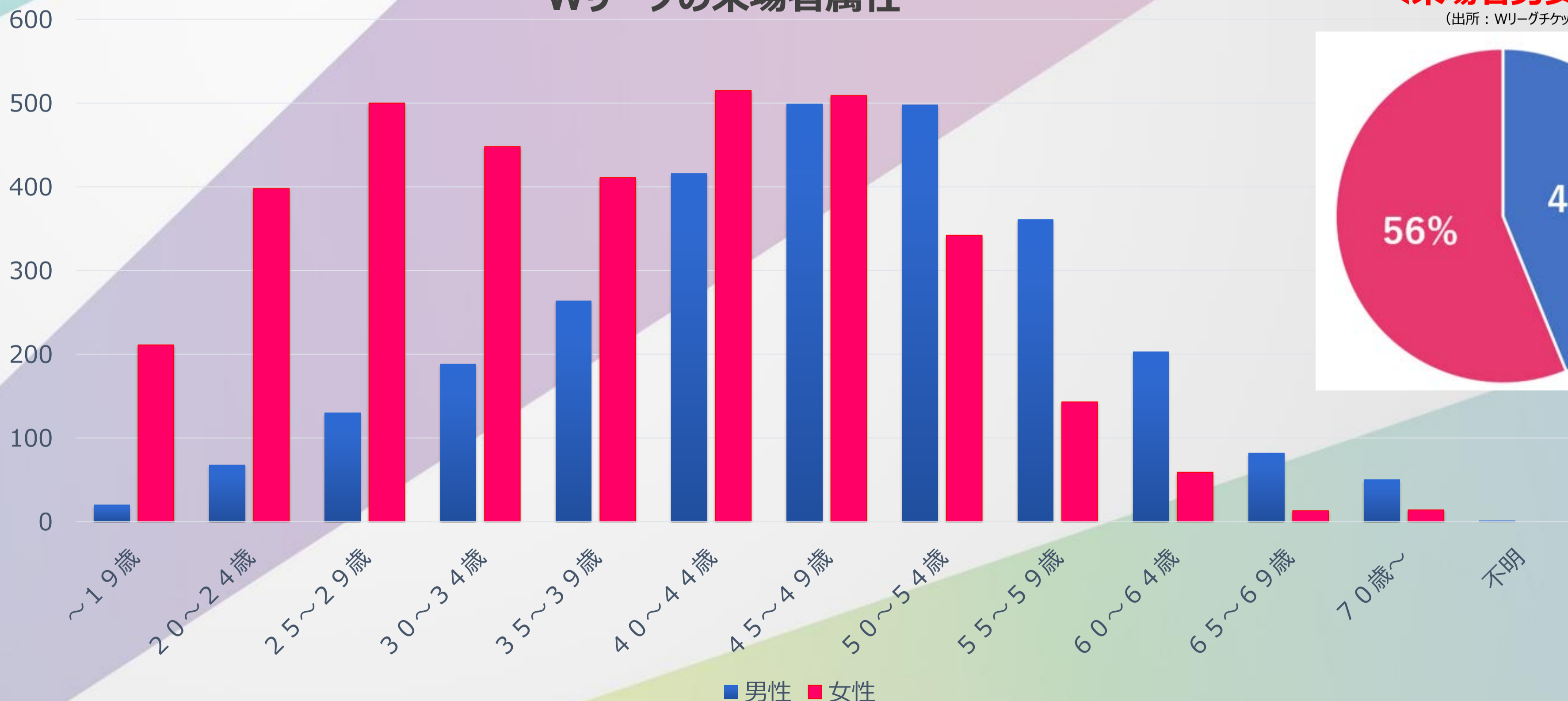
来場者分析・SNS

Wリーグチケット会員 / SNSフォロワー

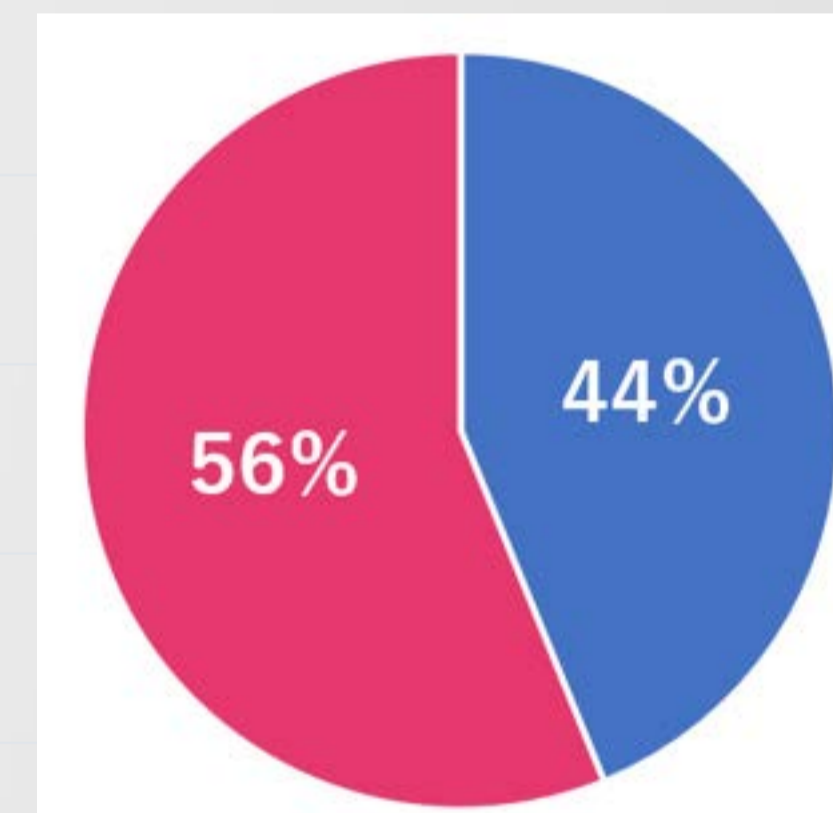
来場者属性

Wリーグにご来場くださるお客様の男女比は44:56
 「若年層女性」と「中高年男性」がコアゾーン。
 選手をロールモデルとして憧れる女性観客層を育てていきたい。

Wリーグの来場者属性



＜来場者男女比＞
(出所：Wリーグチケット)

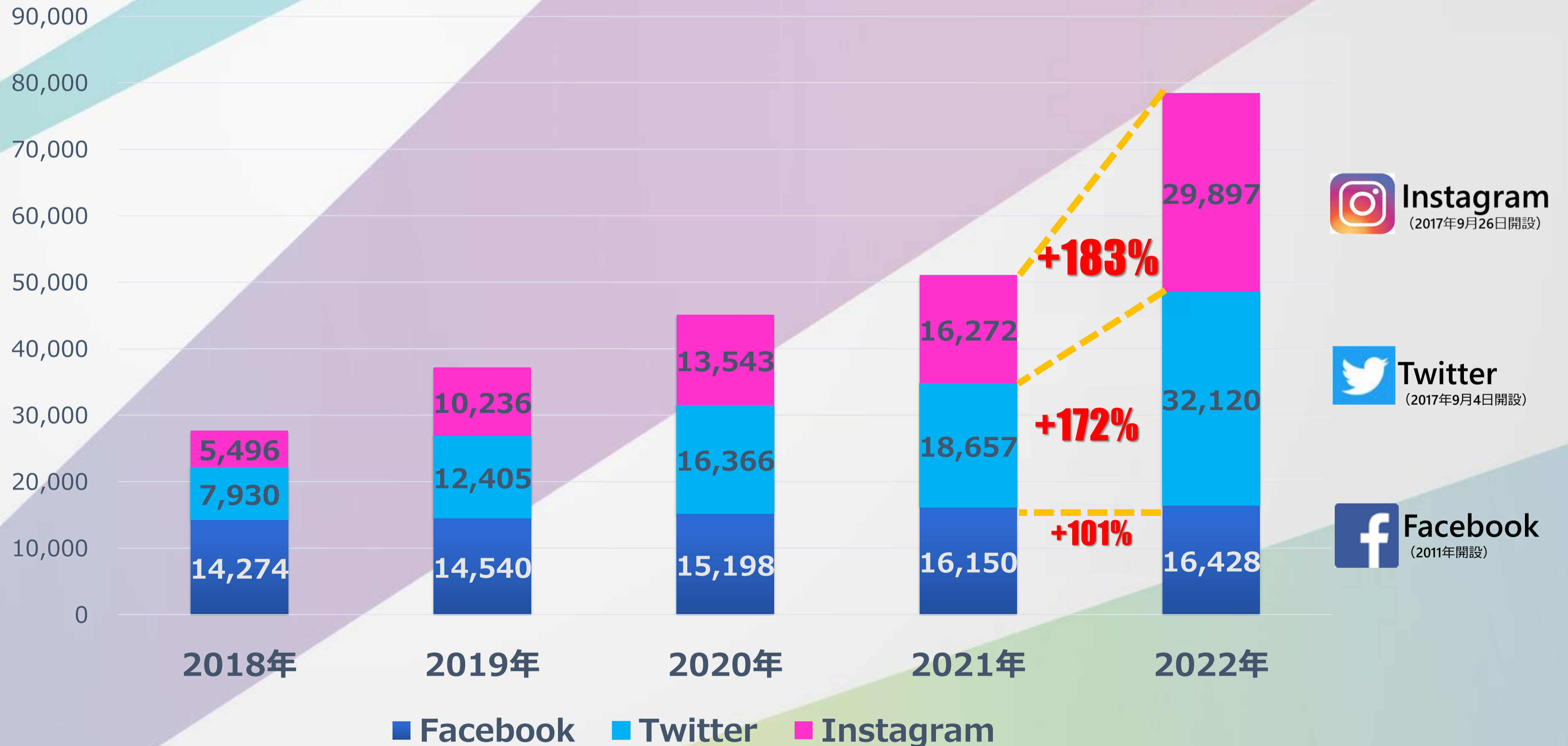


SNS推移

東京2020五輪を機に飛躍的に増加

SNSフォロワー推移

TOTAL + **154%**



第23回 **W**リーグ SEASON REPORT

TOPICS

Women's Japan **B**asketball **L**eague

オータムカップ（高崎）～開幕会見～シーズン開幕戦～レギュラーシーズン



9/3-5 オータムカップ@高崎



JSB（社会人）からも4チームが参戦



来期参入の姫路イーグレッツも参加



シーズン開幕会見で10,000集客を目標に



Wリーグの顔とも言える4選手が意気込み



吉田亜沙美氏を含む4名を功労表彰



東京2020五輪代表2名が揃った開幕戦



アランマーレ秋田がホームで堂々の初陣



前年優勝トヨタ自動車よりカップ返還

レギュラーシーズン (前半)

コロナ禍による50%制限下の中でも多くのお客様が来場。



来場制限の影響もあり完売となる興行も



レギュラーシーズン (後半)

1月後半よりコロナ再蔓延により中止試合が続出。振替対応に追われる。



50%制限を逆手にした広告掲出が話題に



シャンソンは創立60周年をホーム開催で



3/5-6 初の試みの国際女性デーイベント



3/5 試合後に町田（富士通）が会見



振替によりアイシンチームの体育館で開催



振替により三菱電機チームの体育館で開催







試合結果



第23回Wリーグ(2021-2022シーズン) プレーオフ 競技日程

トヨタ自動車 アンテロープス

優勝



【プレーオフファイナル結果】

4月16日(土) 富士通 レッドウェーブ 69-74 トヨタ自動車 アンテロープス
 4月17日(日) 富士通 レッドウェーブ 71-87 トヨタ自動車 アンテロープス



《優勝》 トヨタ自動車 アンテロープス
(2年連続2回目の優勝)

《準優勝》 富士通 レッドウェーブ

- 3位 ENEOS サンフラワーズ
- 4位 シャンソン化粧品 シャンソンVマジック
- 5位 デンソー アイリス
- 6位 トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
- 7位 三菱電機 コアラーズ
- 8位 日立ハイテク クーガーズ
- 9位 東京羽田ヴィッキーズ
- 10位 山梨クィーンビーズ
- 11位 アイシン ウィングス
- 12位 プレステージ・インターナショナル アランマーレ
- 13位 新潟アルビレックスBBラビッツ

表彰選手



《プレーオフ・アワード表彰者》

■プレーオフMVP

山本 麻衣（トヨタ自動車#23）初

■プレーオフベスト5 ※東京運動記者クラブ・バスケットボール分科会の記者により選出

山本 麻衣（トヨタ自動車#23）

シラ ソハナ ファトー ジャ（トヨタ自動車#28）

馬瓜 ステファニー（トヨタ自動車#33）

町田 瑠唯（富士通#10）

篠崎 滯（富士通#11）

表彰者 (アワード&リーダーズ)



《アワード表彰者》

- ・シーズンMVP
渡嘉敷 来夢 (ENEOS)2年ぶり8回目受賞
- ・シーズンベスト5
PG 町田 瑠唯 (富士通)2年ぶり5回目受賞
SG 三好 南穂 (トヨタ自動車)初受賞
SF 赤穂 ひまわり (デンソー)2年連続2回目受賞
PF 渡嘉敷 来夢 (ENEOS)2年ぶり10回目受賞
C 高田 真希 (デンソー)6年連続10回目受賞
- ・ルーキーオブザ イヤー
吉田 舞衣(シャンソン)
- ・ベストディフェンダー
渡邊 亜弥(三菱電機)
- ・コーチオブザ イヤー
ルucas モンデーロ(トヨタ自動車)
- ・ベスト6thマン
平末 明日香(トヨタ紡織)
- ・レフリーオブザイヤー
渡邊 諭

《リーダーズ表彰者》

- ・得点
高田 真希 (デンソーアイリス) 2年連続8回目
- ・アシスト
町田 瑠唯 (富士通レッドウェーブ) 5年連続6回目
- ・リバウンド
渡嘉敷 来夢 (ENEOSサンフラワーズ) 2年連続4回目
- ・スティール
水野 菜穂 (山梨クィーンビーズ) 初受賞
- ・ブロックショット
馬瓜 ステファニー (トヨタ自動車アンテロープス) 初受賞
- ・フィールドゴール成功率
渡嘉敷 来夢 (ENEOSサンフラワーズ) 8年連続9回目
- ・3ポイントシュート成功率
三好 南穂 (トヨタ自動車アンテロープス) 4年ぶり2回目
- ・フリースロー成功率
三好 南穂 (トヨタ自動車アンテロープス) 初受賞

ファイナルの熱気冷めやらぬ中、2度の中止を経ての開催にファンも熱狂。大団円の中でシーズンの幕を閉じた。



メダリストの来場他、引退試合、3X3など各種イベント盛りだくさんの2Daysは終始笑顔あふれる大会となった。



アリーナ概況（オールスター）





『ステーキハウス ブロンコビリー presents Wリーグオールスター 2021-2022 in 代々木』

入場者状況（オールスター） 国立代々木第二体育館



入場者数

Day1 : 1,141人

Day2 : 2,557人 (完売)



第23回 **W** リーグ SEASON REPORT

ACTION

Women's Japan Basketball League



選手とリーグによる自発的な社会への取り組み（1） “WeAreW” 笑顔にあふれた「国際女性デー」イベント

本取組の目的：

- ・女性スポーツができることを考えるとともに、競技がつながることで、女性の豊かな未来を考える機会とする
- ・女性スポーツの素晴らしさ・楽しさ・カッコよさを広く対外的に周知し、観戦する第一歩となる機会を創出する

3月8日の国際女性デーに向けて、3月5日6日の2日間、来場者には特製クリアファイルとステッカーを配布され、会場内には、株式会社モルテンとの共同で製作した「コンセプトマグネティックボール」の展示ブースの設置。試合前には、バスケットボールという枠を超えて、多様なジャンルからゲストを招いてボールお披露目セレモニーを行いました。

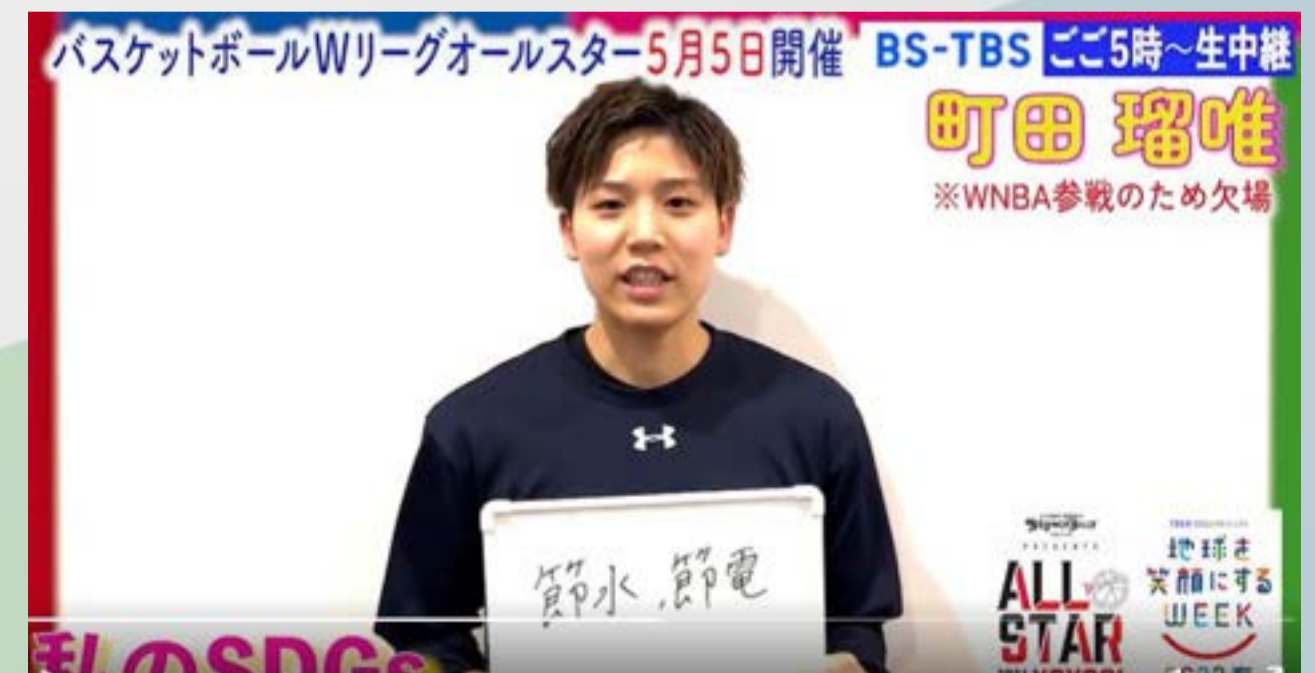
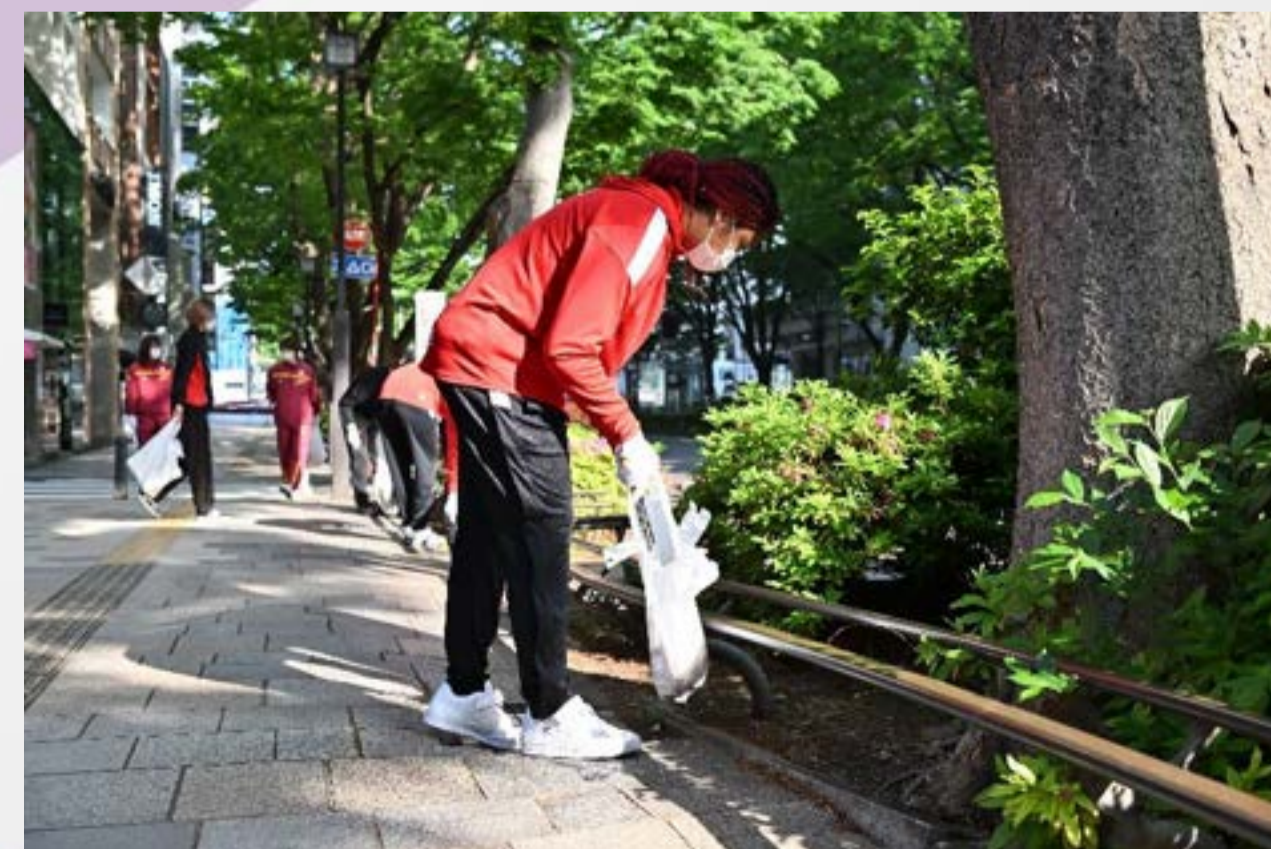
また、選手たちは試合前の選手入場の際に、両チームの選手たちがミモザの花の色をあしらったTシャツを着用し入場。試合では、センターサークルが国際女性デーのデザイン仕様となったコートで熱戦を繰り広げました。



選手とリーグによる自発的な社会への取り組み（2）

「オールスター」のチーム名にちなみ「渋谷」「原宿」の早朝清掃活動を実施

オールスターの中継局であるBS-TBSによるSDGsプロジェクト「地球を笑顔にするWEEK」に賛同。オールスター選手全員が原宿・表参道、渋谷センター街に分かれて試合日の早朝に清掃活動を実施。SNSでも各選手が自身で自発的に実施しているSDGs活動を連日紹介し、毎日のちょっとした工夫が立派なアクションであることを広く啓蒙いたしました。



ご声援いただき誠にありがとうございました
Wリーグは更なる進化を目指し走り続けます。

